4,357 (117.8)	13,270 (76.7)	35,721 (86.1)
5,412 (119.8)	13,272 (76.7)	64,134 (101.6)
50,447 (106.5)	118,868 (88.4)	581,326 (93.9)

内は前年同月比

和牛肉セミナー行う

ドイツ・アヌーガに出展

日本畜産物輸出促進協議会・牛肉輸出推進部会は10月10～14日、ドイツのケルンメッセで行われた「ANUGA2015」で和牛肉セミナーを行った。ANUGAは隔年で開催され、出展は187カ国、6千社以上で15万人以上の食に関する事業者が参集した。

ドイツのみならずEU全域に対して日本産和牛の魅力と特徴を正しく伝えるため、共同実施者として伊藤ハム、鹿児島県食肉輸出推進協議会、京都府農林水産物・加工品輸出推進協議会和牛部会、エスフーズ、讃岐牛・オリーブ牛振興会、スターゼンインターナショナル、全農、日本ハム、ミートコンパニオン、ミヤチクの11事業者が参加した。

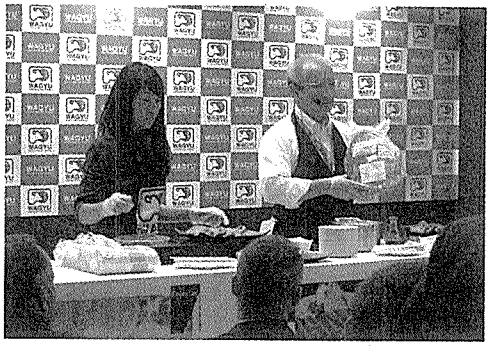
見本市会場は11のホールに分かれているが、ジェトロが設置するジャパンパビリオンの枠を使い、世界の食肉および食肉加工品が集まるミートパビリオン内にスペースを確保していた。

開会に先だち、中央畜産会の菱沼毅顧問が「オールジャパンで和牛の普及活動を行っており、日本の純血和牛にのみ和牛の統一マークが張られている。他国の和牛との識別に活用してもらいたい」とあいさつ。

講演では、鹿児島県食肉輸出推進協議会、京都府農林水産物・加工品輸出推進協議会和牛部会、讃岐牛・オリーブ牛振興会、南九州大学の六車三治男教授、ミートコンパニオンの植村光一郎常務取締役らがオールジャパンを前提に、産地特性、肉質特性の説明、試食実演などを行った。

六車氏は和牛香、脂肪の融点の特徴、脂肪酸組成、格付基準の厳格さについて科学的根拠を示しながら説明。植村氏は和牛の肉質特性を説明しながら、ランプ、カタロース、ヒレ、リブロース、サーロインの商品化を行い、観衆の前で調理試食を行った。36センのすき焼き用ナイフを使用した、すき焼き用大皿の華盛りを商品化したときには観衆から拍手喝采を受けた。

また、植村氏は、和牛は高額過ぎて使用できないという観衆に対し、分厚いステーキではなく、スライス肉と副菜を使用したすき焼きやカットステーキを他の食材と組み合わせた調理方法を提案。きのこ類のトリュフやレバー類のフォアグラのように「少量でも十分満足できる和牛の特性を伝えていきたい」と抱負を語った。



和牛の肉質を説明する植村常務

CVSは10兆円超え

売上高 14年チェーン統計

JFA

一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会（JFA）は10月23日、「2014年度フランチャイズチェーン統計調査」を公表した。日本国内のFC数は前年度より17チェーン増加し1321チェーン（以下、C）高は3・0%増だった。このうち、CVSはC数の変化はないが、大手チェーンの大幅な出店により店舗数は5・4%増加。PB商品の強化などにより売上高は15・4%増加し、10兆円を超えた。

外食業全体は12C増の562Cで、店舗数は2・1%増、売上高は1・8%増と3年連続で増加した。「カレー・牛丼」の店舗数は6・6%増、売上高は6・3%増。「焼き肉・その他一般レストラン店」の店舗数2・7%増（142店舗）、売上高7・2%増となった。

退職給付制度を変更

部について、過去分、将来分ともに確定拠出年金制度に移行し、確定給付

3畜種とも好調推移

JCA 9月分の販売速報

日本チェーンストア協会（JCA）がまとめた販売統計速報（会員企業58、9330店舗）によると、9月の食料品合計販売金額は6832億8080万円（既存店ベース・前年同月比3・7%増）となった。

引き続き相場高が影響し、畜産品は788億1015万円（4・3%増）と、牛肉、豚肉、鶏肉ともに好調。鶏卵の動きも良かったが、ハム・ソーセージの動きは鈍かった。総菜は806億2049万円（6・8%増）で、温総菜はスナック、揚げ物が好調だったが、中華、焼き物は不調に終わった。要冷総菜は和総菜、洋総菜ともに動きが良く、弁当、すしも好調だった。

その他食品（2・6%増）はヨーグルト、食用油、調味料、おでんや鍋物関連商品、生麺類など

畜産は4%増と

JSA9月の販売

計企業60社、480店舗）がまとめた販売概況によると、9月の食料品売上高は5584億7002万円（前年同月比4・9%増）、既存店ベースでは5372億9387万円（2・8%増）となった。

畜産品の売上高は579億5965万円（6・4%増）で、既存店ベースの売上高は557億6330万円（4・1%増）。牛肉の相場高が継続したものの、大型連休のごちそうメニュー訴求、気温低下に対応した鍋関連商材の訴求により、全畜種がおおむね好調に推移した。

総菜は541億3432万円（6・0%増）で、既存店ベースでは520億3899万円（3・6%増）。敬老の日、大型連休でのオードブル、にぎりずし、天ぷら盛り合わせなどのパーティーメニューがとくに好調だった。

加工食品は1365億8300万円（3・0%